

## 第 19 回非同盟諸国首脳会議議長、ウガンダ共和国 ヨウェリ・カグタ・ムセベニ大統領の開会あいさつ

2024 年 1 月 19 日 カンパラ

第 18 回非同盟運動首脳会議の議長国であるオフル・アリエフ、アゼルバイジャン共和国 大統領閣下、  
非同盟運動の各国首脳および政府首脳、ならびに代表団長閣下、  
アントニオ・グテーレス国際連合事務総長閣下、  
デニス・フランシス第 78 回国連総会議長閣下、  
ウガンダ副大統領閣下、  
その他ウガンダ政府および党の指導者の皆様、  
ウガンダの皆さん、

皆様、

各国首脳及び政府首脳の皆様、ならびに NAM 諸国の代表団団長の皆様をお迎えし、大変 光栄です。この NAM 諸国のグループは、44 億 6 千万人の世界人口を擁するグループです。1955 年、インドネシアのスカルノ元首相、インドのネルー元首相、エジプトのナセル元首相、中国の周恩来元首相がインドネシアのバンドンで会合を開き、先見の明のある 元老たちによって始められました。

NAM の第 1 回首脳会議は 1961 年にユーゴスラビアのベオグラードで開催され、アフガニスタン、アルジェリア、ビルマ、カンボジア、セイロン、コンゴ、キューバ、キプロス、エチオピア、ガーナ、ギニア、インド、インドネシア、イラク、レバノン、マリ、モロッコ、ネパール、サウジアラビア、ソマリア、スーダン、チュニジア、アラブ連合共和国、イエメン、ユーゴスラビアが、出席しました。

NAM の出現は、資本主義的な西側諸国と共産主義的な主に東側諸国との間の、

当時の世界の不合理な二極化に対する必要な解毒剤でした。1960年代初頭、私たちの学生グループはすでに活動を始めていました。私たちはアフリカの反植民地闘士の第3世代でした。第一世代は、アフリカ系アメリカ人汎アフリカ主義者のマーカス・ガーベイ(1887~1940)年、ジョージ・パダモア(1915~2005)、WB デュボア(1868~1963)で、第一2世代には、1912年に南アフリカでANCを創設した人々が加わっていました。1900年までに、エチオピアを除くアフリカ全土が植民地化されました。このアフリカ大陸全体の直接的な植民地化は、奴隷貿易とそれに伴う大量虐殺戦争という形で、邪悪な帝国主義勢力による400年にわたるアフリカ略奪が頂点に達したときでした。新しく発見されたアメリカ大陸、アジア、中国、太平洋地域(オーストラリア、ニュージーランドなど)も同様に侵略され、植民地化され、中国のように半植民地化され、収奪されました。

アフリカが屈服したのは、一部分、私たちのエゴ中心の酋長や国王たちが、利己主義から、これらの邪悪な人々と戦うために私たちを団結させることができなかったせい、でもあります。アフリカの自由の戦士たちの第二世代は、1940年代に登場したジョモ・ケニヤッタ、ジュリアス・ニエレレ先生、ネルソン・マンデラなどです。

ですから、1960年代に登場した私たちは、反植民地闘争者の第3世代にあたります。私たちは、最終的にアフリカをこのような災厄に導いた諸力の相互作用を真剣に研究しました。その研究において、私たちは政治経済学という手段を用いました。政治経済学とは、ある社会システムから別の社会システムへと、社会の動きを支配する基本的な法則を発見するのに役立つ学問です。

その研究の中で、私たちは、450万年前にここアフリカに出現した人間、ホモ・サピエンス・サピエンスが主役であることを、発見しました。当初、この賢い人間(これがホモ・サピエンス・サピエンスの意味です)は、洪水、干ばつ、病気、猛獣、地震などの形で、自然による人間の抑圧に対処していました。これらの自然現象は、もちろん他の生物—猛獣、植物などを圧迫していました。しかし、その他の生き物は、自然を抑制することは、少しか、あるいは何もできませんでした。

唯一できることは、生き残るために自然に適応することでした。寒冷気候の中で、ビーバーが冬に冬眠するのも、そのためです。自然現象を抑制して利用し、生活の質を向上させようとする能力を持っているのは、人間だけです。なぜ人間にそのような能力があるのでしょうか？それは、人間の3つの特性のためです。それは、本能的な行動だけでなく、理性的な行動ができる優れた頭脳、働くための道具を作って使うことができる手、そして二足歩行（爬虫類のように頭を下げて歩くのではなく、頭を上げて、障害物がある地上の間を移動する、二本足で歩く能力。このことにより、人間は遠くを見て、考えることができるようになりました）です。

これらの特徴によって、人間は、道具を発明することができました。これらの、石器道具、木製道具、鉄製道具などの道具、今日ではトラクターを作り、機械製作道具まで作るようになっていきます。このことによって、人間は、社会の質的・量的な変化を促す科学的発明をすることができるようになったのです。150万年前の火の発明によって、社会は樹上生活から洞窟や地上生活へと一般的に移行しました。洞窟は木よりも快適でした。1万年前の作物の栽培、1万2千年前の動物の家畜化、紀元前1500年頃の鉄の発明、蒸気機関、印刷機、電気、鉄道、自動車、航空機、自動化、ワクチン、ペニシリンの発明、キニーネの発明などなど。これらにより、人間は、生活の改善のために、自然現象や自然により良く対処し、抑制することができるようになりました。

創造と社会の政治経済学を研究することによって、社会の変化の基本的な原動力は、科学技術の発展であることを発見することができました。したがって、科学技術のレベルを前進させる社会は、積極的な社会変革の基礎を築き、世界の進歩的勢力によって奨励されるべきです。この奨励は、関係する社会の社会システムに関係はありません。

しかし、人間の発明力が自然による人間の抑圧に対処していたとき、人間に対する別の形の抑圧が現れました。それは、人間同士による人間の抑圧です。カール・マルクスは、人間にとってのこの新しい問題に正確に取り組んだと思われる数少ない分析家の一人です。彼が指摘したのは、人間がまだ狩猟採集社会で

暮らしていた原始的な共同体主義の時代に おいてのみ、人間による人間への抑圧がない社会が存在したということです。それ以後の 社会システムには、程度の差こそあれ、すべて人間による抑圧の要素がありました。

それは、征服戦争、侵略戦争、奴隷制、帝国主義、新植民地主義、植民地主義、封建主義、 資本主義の原始蓄積、排外主義などの形においてです。

これらの搾取の要素は、まったく不必要であり、貪欲さによってのみ推進されるものです。 1453 年にコンスタンティノープルを占領したオスマン帝国にとって、マルコ・ポーロが 開拓したシルクロードをヨーロッパ人が利用するのを妨害する必要があったのでしょうか？こうして封鎖されたヨーロッパ人は、ポルトガル人 ヘンリー航海王子に率いられ て、アフリカを回る海路を探し始めました。これは、オスマン帝国の理不尽な行為によってヨーロッパ人に強いられた正当かつ肯定的な対応でした。その結果、クリストファー・ コロンブスは 1492 年にアメリカ大陸に到達し、ヴァスコ・ダ・ガマは 1498 年に南アフリカの喜望峰を回りました。

この時すでに、アフリカ航路を求めるヨーロッパ人の積極的 な努力は、ポルトガル人による奴隷奪取の悪行によって汚され始めていました。最初の奴 隷は、1441 年にポルトガル人によって捕らえられたと言われています。アメリカ大陸の 発見とアフリカを海路で回るといふ 2 つの大きな成果は、やがてアフリカ、アメリカ大陸、 そしてアジアに大きな災いをもたらす前触れとなったのです。

ヨーロッパ人は、弱者いじめを行うものとして、造船技術の進歩と火薬の使用を利用し、 アフリカ、アメリカ大陸、アジア、太平洋を征服しました。奴隷制度、帝国主義、植民地 主義、半植民地主義、征服、そして場合によっては先住民の絶滅を通じたヨーロッパ人による他の人類の収奪は、500 年間も続きました。

人類は、造船、紀元前 800 年頃に中国人が発見した火薬の幅広い使用、スペイン人がアメリ カ大陸の先住民インディアンから学んだマラリアに対するキニーネの幅広い使用、印刷 機、蒸気機関、その他すべての発明における科学の進

歩を祝う代わりに、邪悪な寄生虫を 追い出すために 500 年間に反植民地戦争に費やさなければなりません。アフリカの場合、南アフリカの先住民が自国の支配権を取り戻したのは、1994 年のことです。

抑圧者が、科学技術における一時的な優位性を利用して、他の人々を無制限に抑圧できると考えるのは誤算です。抑圧された人々は学び、追いつき、抑圧者を打ち負かすでしょう。だから、帝国はいつも、すべて崩壊するのです。帝国という考えは、邪悪な考えなのです。

私たちは、世界の人々と相互利益のために交流する、共通の、あるいは共通の起源を持つ人々の、自由な国家連合だけを持つべきです。ですから、私たちウガンダのレジスタンス 戦士は、世界の一部の行為者の哲学的、イデオロギー的、戦略的な浅はかさにあきれ、軽蔑のまなざしで見えています。もし、あなた方が民主主義者だと言うのなら、なぜすべての人の自由を尊重しないのですか？

操ったり、説教したり、脅したりする代わりに、なぜ自分の良い手本によって人々に影響を与えようとしませんか？ 人種、宗教、部族、性別を問わず、排外主義者は、その浅はかな企みで私たちの時間と機会を無駄にするのをやめるべきです。行動は必然的に反作用を招きます。抑圧は抵抗を招きます。

だからこそ、私たちウガンダのレジスタンス戦士は、正義の戦争だけを戦うのです。私たちは不正義の戦争を憎みます。不正義の戦争の推進者は、ほとんどの場合、負けます。それらは、帝国主義、征服、支配などの戦争です。アフリカに対するヨーロッパの 500 年にわたる侵略の中で、現代の自由の戦士たちがアフリカの抵抗を率いるようになったのは、南アフリカで ANC が設立された 1912 年以降のことです。伝統的な、無知のアフリカの首長は、1896 年にイタリア人を破ったエチオピアのメネリック 2 世を除き、主権を擁護することはできませんでした。

近代のアフリカの抵抗闘士たちは、アフリカ全土から侵略者を排除するのにわずか 82 年しかかからず、最後に自由を得たのは 1994 年の南アフリカでした。その 82 年の間に、ケニアのマウマウ、アルジェリア、モザンビーク、ア

ンゴラ、ギニアビサウ、ナミビア、5 南アフリカ、ジンバブエなどでの抵抗戦争がありました。私たちはどこでも勝利しましたが、多くの時間を失った後でした。そもそも、なぜ帝国主義者たちは私たちが支配しようと考えたのでしょうか？ ですから、非同盟運動は正しかったのです。1940 年代、1950 年代、60 年代、70 年代の資本家と共産主義者の非論理的な両極化は間違っていました。なぜ新しい考え方が緊張を引き起こさなければならないのでしょうか？

オーストリア=ハンガリーのメッテルニヒのような人たちは、ヨーロッパの封建的秩序に挑戦する資本主義の新しい思想を、戦争によって阻止できると考えたのです。オーストリア=ハンガリー帝国は、地球上から消滅し、資本主義の広がりには止まりませんでした。

私たちの立場は、世界は人類共通の問題 貿易による繁栄、人類の問題に対処するための 科学技術の進歩、環境、犯罪、テロリズム に集中すべきだということです。私たちが正しく行動すれば、未来は明るいのです。これらは、実際、バンドンの諸原則です。

1. 基本的人権の尊重、国際連合憲章の目的と原則の尊重
2. すべての国の主権と領土保全の尊重
3. すべての民族の平等及び大小すべての国の平等の承認
4. 他国内部問題への介入や干渉を行わないこと
5. 国際連合憲章に従い、各国が単独または集団で自国を防衛する権利の尊重
6. いかなる大国の特定の利益のためにも、集団防衛の取り決めを利用しないこと、いかなる国も他国に圧力をかけないこと
7. いかなる国の領土保全や政治的独立に対する侵略行為や脅迫、武力行使の自制
8. すべての国際紛争を、交渉、調停、仲裁、司法上の解決、および当事者自身を選択するその他の平和的手段など、平和的手段によって解決すること
9. 相互利益及び協力の促進
- 10 正義と国際義務の尊重

NAM はこれらの原則に基づいて設立されました。私たちウガンダのレジスタン

ス戦士は、このような考え方を総合することで、非常に良い結果を得たことを証明することができます。自由市場の考え方と、銀行、エネルギー、運輸などいくつかの部門における経済への選択的な国家介入の考え方を組み合わせ、また、改革された文化制度など、資本主義以前の制度のいくつかの側面を復活させることで、ウガンダは、非常に低い基盤から出発したにもかかわらず、過去37年間、年間6.2%の成長率を達成しました。

ですから、私たちはこのような一元的なイデオロギーに基づく病的な偏見には感心しませんし、賛成することもできません。宇宙が誕生して300億年、人類社会が誕生して450万年になります。ですから、あなた方は、あなた方の住む社会、ましてや世界に、あなた方の狭い単一イデオロギー的志向を押し付けるような無謀さを持つべきではないのです。

結論として、NAMの力は、より良い共通の未来のための効果的な変革プロセスのために、特に国連において大きな影響力を行使するために使われるべきです。2024年9月にニューヨークで開催される予定の国連未来サミットの成果文書である「未来協定」の交渉において、私たちは、バンドンの原則に沿って、加盟国間の団結、連帯、集団的協調を維持することにより、開発途上国に有利な優先事項を明確に定めるべきです。私は、ニューヨークの常任代表を中心とする私のチームが、非同盟運動調整局の議長を務めるにあたり、全面的な支援を受けることをお約束します。

ウガンダによろこそ。

ヨウェリ・カグタ・ムセベニ  
ウガンダ共和国大統領

2024年1月19日

【翻訳 新藤通弘】